

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	T-LOGI白岡	階数	地上4階
建設地	埼玉県白岡市	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	565 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2026年1月22日
敷地面積	18,055 m ²	作成者	山野哲靖
建築面積	11,592 m ²	確認日	2026年1月22日
延床面積	44,073 m ²	確認者	山野哲靖



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	77%
③上記+②以外の	57%
④上記+	57%

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	・断熱性の高い材料の採用と高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。	
その他	-	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・評価対象外	・天井高を高く確保することで、室内の快適性の向上に配慮している。	・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・効率の良い設備機器を導入している。	・O Aフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	・燃焼設備を設けず、建物からの大気汚染物質発生に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体		
		Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境								
1 音環境		-	-	-	-	-		
1.1 室内騒音レベル	-	-	-	-	-	-		
1.2 遮音	-	-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能	-	-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能	-	-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	-		
1.3 吸音	-	-	-	-	-	-		
2 温熱環境		-	-	-	-	-		
2.1 室温制御	-	-	-	-	-	-		
1 室温	-	-	-	-	-	-		
2 外皮性能	-	-	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御	-	-	-	-	-	-		
2.3 空調方式	-	-	-	-	-	-		
3 光・視環境		-	-	-	-	-		
3.1 昼光利用	-	-	-	-	-	-		
1 昼光率	-	-	-	-	-	-		
2 方位別開口	-	-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備	-	-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策	-	-	-	-	-	-		
1 昼光制御	-	-	-	-	-	-		
3.3 照度	-	-	-	-	-	-		
3.4 照明制御	-	-	-	-	-	-		
4 空気質環境		-	-	-	-	-		
4.1 発生源対策	-	-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質	-	-	-	-	-	-		
4.2 換気	-	-	-	-	-	-		
1 換気量	-	-	-	-	-	-		
2 自然換気性能	-	-	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮	-	-	-	-	-	-		
4.3 運用管理	-	-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.7		
1 機能性		-	-	-	-	-		
1.1 機能性・使いやすさ	-	-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画	-	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性	-	-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観	-	-	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	-		
3 内装計画	-	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理	-	-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性		3.1	0.50	-	-	3.1		
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数	-	3.4	0.30	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を使用	5.0	0.10	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管材を使用	5.0	0.20	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	-		
2.4 信頼性	-	3.2	0.20	-	-	-		
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	-		
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-	-		
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-	-		
4 機械・配管支持方法	耐震クラス:Aクラス	4.0	0.20	-	-	-		
5 通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機器の地下設置回避等	4.0	0.20	-	-	-		

3 対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高を確保することで将来の用途変更へ考慮		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	空間の自由さを確保し将来の用途変更へ考慮		5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり	【工】床積載荷重: 4500N/m ² 以上		5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能である		5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能である		5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	効率のよい設備機器を導入		5.0	0.50	-	-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4 効率的運用に向けた取組み			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.40	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.40	-	-	
4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	-		3.0	0.10	-	-	
4.4 コミッショニングの推進	-		3.0	0.10	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水	-		3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減	機械式継手等を採用		4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGSE工法、OAフロアの採用		5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮	高効率な設備機器の採用によるCO ₂ の削減		4.7	0.33	-	-	4.7
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止	燃焼機器の設置は無い		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		2.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	3.0	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0	8.0	2.0	-	2.0	-	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	3.0	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	1.0	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	4.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミュニケーションの推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	4.0	4.0	-	1.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	2.0	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	6.0	1.0	-	-	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	2.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 0 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 0 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 28% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 36% 水平投影面積率 2% 地表面対策面積率 11% 舗装面積率 28%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.65 断熱等性能等級 0 相当
2 自然エネルギー利用(直接利用)	影響範囲の割合 0.0% 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kWh
非住宅部分	BEI/BEI _m 再エネ有 - 無 0.47 オフサイト再エネ有 - ○○GJ/年
集合住宅	一次エネ削減率 再エネ有 ##### 無 #####
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 0% 隣棟間隔指標R _w - 地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b ㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 0 m 基準高さH _b 0 m 緑地 1.547㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡